

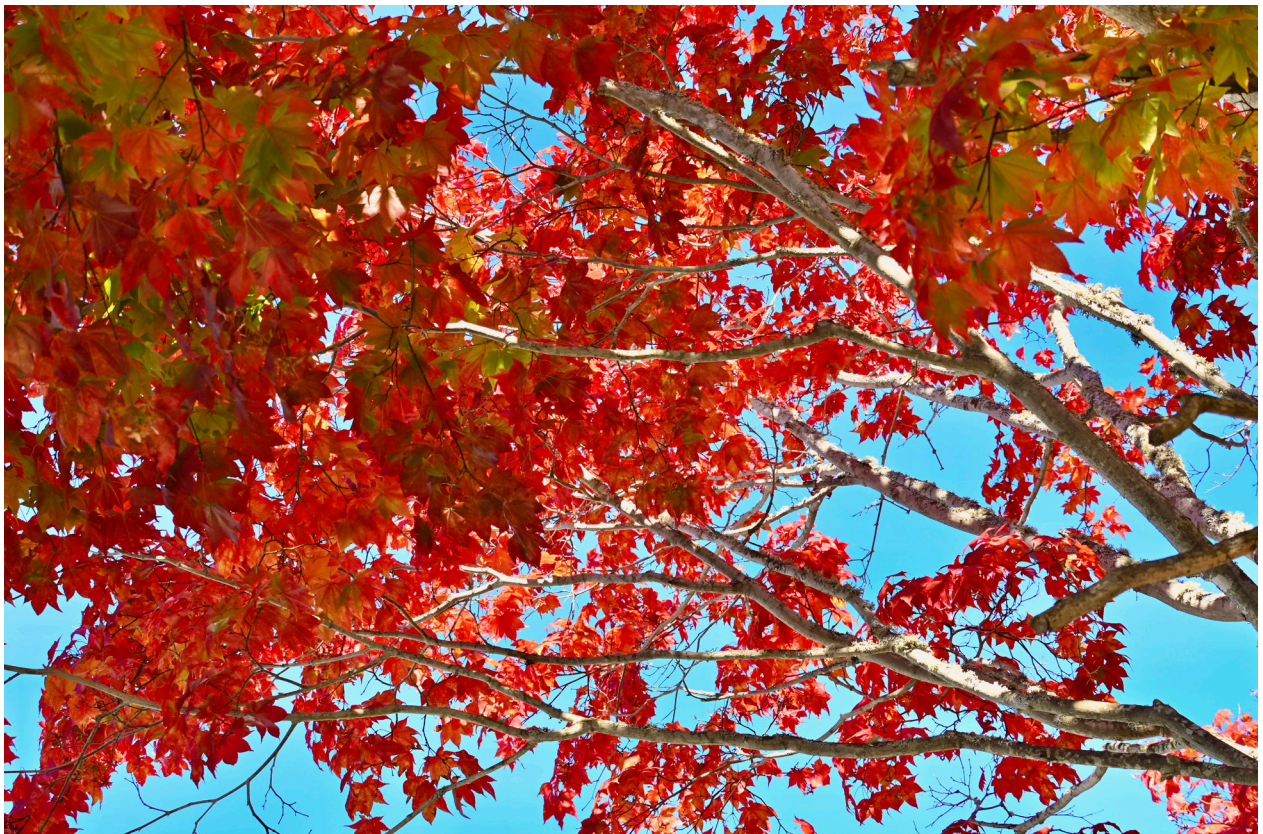
月刊 やちまなこ

2023.11.15 発行

No.312

11月号

釧路湿原国立公園 塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）だより



イタヤカエデ [*Acer pictum subsp. mono*]

今年の釧路湿原は、夏と秋の寒暖差が激しかったためか、紅葉がひと際美しかった。職場へ向かう国道の尾根筋も彩りが鮮やかで、春の桜の季節とは、また違った趣きのある光景が広がっていた。

北海道で楓といえばイタヤカエデが代表ですが、実は日本人の食文化にも貢献していることを知る人は少ないかもしれない。樹木は厳しい冬を乗り越えるために、幹に流れる水分が凍ることがないように糖분을貯えており、その樹液を煮詰めると糖分だけが抽出されてシロップになるという。

イタヤカエデの樹液は国産メープルシロップの主原料としても利用されている。



塘路フィールドノート【10/15~11/14】

【野鳥】

朝晩が冷え込み、早くも寒い冬を待つ釧路湿原。雁カモは既にシラルトロ湖には集まっているようだ。塘路湖は白いオオハクチョウとユリカモメの姿が目立つが、よく目を凝らせば、様々な水鳥が寄り道をしている。



タンチョウ (塘路湖畔)

釧路湿原の象徴。給餌が始まり塘路湖周辺では、あまり見掛けなくなった。ツル科。



イスカ (釧路湿原)

松の種子を食べることに特化した嘴。生態はギンザンマシコに似ている。アトリ科。



カンムリカイツブリ (塘路湖)

最近、道東でも飛来数が増えているという。塘路にも1羽立ち寄った。カイツブリ科。



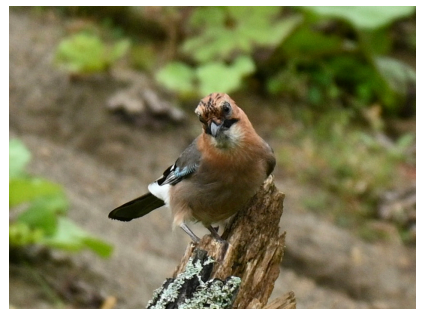
オオハクチョウ (塘路湖)

塘路湖の水鳥の代表種と言っても良い。寒くなり飛来数が増してきた。カモ科。



ノスリ (釧路湿原)

10月に鳥インフルエンザが出た渦中の鳥。風に乗って獲物を探す。タカ科。



ミヤマカケス (二本松)

留鳥だが秋から冬に見掛けるカラスの仲間。羽根の水色がよく目立つ。カラス科。



オオバン (塘路湖)

夏鳥というが塘路湖では冬季に見掛けることが多い。潜水を繰り返す。ツル目クイナ科。



エゾライチョウ (塘路原野)

やや山地にいることが多い。キツツキのように木をつついて虫を食べていた。キジ科。



ユリカモメ (塘路湖)

最近、利用者からのお問い合わせが多い、旬な鳥。目の後ろの黒斑が特徴のカモメ。

【植物・菌類】

先月まで進みの遅かった紅葉も、カエデ類を中心に綺麗に色づき、昨年よりも綺麗な紅葉が楽しめた。秋のキノコも例年と比べて発生の時季が少し遅かった気がした。



ヤマモミジ (山紅葉)

品よく美しい紅葉をするという意味では、イタヤカエデより代表的な樹木。カエデ科。



ススキ (芒・薄)

湿原に多い葦よりも乾燥した土壤に生える。小穂に1本の芒がでるのが特徴。イネ科。



ツルウメモドキ (蔓梅擬)

普段は地味だが、秋に黄色の実が割れると急に存在感が増すように思う。ニシキギ科。



ニシキギ (錦木)

センター周辺で最初に紅葉を感じさせてくれる低木。ニシキギ科。



ハナイグチ (花猪口)

秋のきのこラクヨウ。昨年は気づかなかったが、今年は沢山出ていた。イグチ科。



オニフスベ (鬼燻)

センターの脇に突如発生した大型の白球体。ソフトボールくらいあった。ハラタケ科。

◎ラムサール条約釧路会議30周年記念事業 晩秋の釧路湿原 野鳥観察会を開催しました。

10月22日(土)は、ラムサール条約釧路会議30周年記念事業の一環として、シラルトロ湖畔にて野鳥観察会を行いました。

観察会は曇天無風の好条件。はじめに講師からラムサール条約についての解説がなされ、双眼鏡の練習をしつつ野鳥観察が始まりました。湖面には多くの水鳥たちの姿があり、双眼鏡やフィールドスコープを使って、それらの水鳥たちをじっくりと観察できました。対岸にはタンチョウやダイサギの姿がみられ、カワアイサなど数種類のカモ類も観察されました。また、留鳥としては、カラ類のほか、人気のシマエナガも姿を現しました。講師からはそれぞれの野鳥の特徴・エクリプス羽・似たような鳥の見分け方などの解説がされ、参加者は解説に熱心に耳を傾けました。最後は湖面上空を、天然記念物オオヒシクイがV字飛行するのを観察してフィナーレとなりました。確認種 14 種類 参加者 8 名



タンチョウ



カワウとカワアイサ

◎キノコの奥深い世界を学びました

11月4日(土)は、北海道キノコの会から講師を迎え、キノコの座学講座を行いました。

8月と9月の観察会で確認されたシラルトロ湖周辺のキノコ類約60種をスライドで紹介しながら、それぞれのキノコについて、その特徴や生えてくる樹種などについて学びました。

また、昆虫(蛾)の大量発生と冬虫夏草の増加の関係を森林の生態系に絡めた解説や、キノコの乾燥標本を見ながら参加者が講師とディスカッションするなど、キノコの奥深い世界の知識を深めました。

参加者 11名



12月の自然ふれあい行事

事前の申込が必要です。

草木染め体験講座

[日 時] 12月2日(土) 13時～15時
[定 員・参加料] 15名 500円(材料費)
[開催場所] 塘路湖エコミュージアムセンター

◎問い合わせは塘路湖エコミュージアムセンターまで

初冬の湿原 野鳥観察会

[日 時] 12月16日(土) 10時～12時
[定 員・参加料] 15名 無料
[開催場所] 塘路湖エコミュージアムセンター

◎問い合わせは塘路湖エコミュージアムセンターまで

湿原の「かたち」を見て歩こう

[日 時] 12月3日(日) 10時～12時
[定 員・参加料] 15名 無料
[開催場所] 温根内ビジターセンター

◎申込・問い合わせは温根内ビジターセンターまで
(0154-65-2323)

◆日出・日入時間 10/15(5:35,16:40). 10/31(5:55,16:15).11/14(6:13,15:59)

～ 指導員のひとり言 ～

■秋も深まり、気温もぐっと下がってきた釧路湿原。つい先頃まで扇風機をつけて、暑さに音を上げていた気がしますが、気づけばストーブが恋しい季節となりました。

寒暖差があった年は、紅葉が美しいと言いますが、今年の塘路は昨年よりも紅・橙・黄の葉が鮮やかで、美しい秋だったように感じられました。この編集が終わる頃には散ってしまい、冬将軍がもうすぐそこまで来ています。

11月から、閉館時間も冬時間に変わっております。利用される際は、ご注意願います。

釧路湿原国立公園

塘路湖エコミュージアムセンター あること

☎ 088-2264 北海道川上郡標茶町塘路原野
TEL: 015-487-3003 FAX: 015-487-3004
E-mail: emc@kushiro-shitsugen-np.jp

Instagram [torokoemc](https://www.instagram.com/torokoemc)

開館時間: 10:00～16:00

(4～10月: 17:00まで)

休館日: 毎週水曜日 12月29日～1月3日

入館無料